授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	地域･在宅看護論実習	担当講師	坂本　真由美 和田　美穂
実施年次	3 年次	単位数	2 単位	時間数	90 時間

科目設定のねらい

人々の生活は、本来住み慣れた地域で営まれており、その人がその人らしく過ごせる場である。住み慣れた地域・家には、その人が長年築いてきた生活があり、固有の信念や価値観がある。また、今後の人生設計をしながら望む生活に向かって生活を営んでいる。病気や障害をもちながらも、人々は住み慣れた場所で自分らしく生活できることを望んでおり、看護者には人々が主体的に生活を営んでいくことをサポートする役割がある。地域・在宅看護の対象は、年齢や疾患を問わず地域で生活をしているすべての対象者とその家族である。

地域・在宅看護論実習では、地域で生活する対象を理解し、主体性を尊重したその人らしい生活を維持するための看護を看護師が行うケアに参加する中で理解を深める。また、地域で生活する対象が安心した生活が過ごせるためのシステムや保健・医療・福祉チームの連携の実際を知り、地域における看護職の役割について学ぶ。

時間	単元目標	内　容
90	1. 地域で生活する対象の、様々な生活状況を踏まえた療養上の課題が理解できる	1）地域で生活する対象の生活状況 2）地域で生活する対象者と家族の生活アセスメント、病態と症状アセスメント、家族のアセスメント
	2. 地域での生活を継続するための、在宅看護が理解できる	1）健康状態に合わせた看護とケアマネジメント 2）対象の意思決定支援 3）人間関係形成に向けた取り組み 4）リスクアセスメントと安全な生活 5）災害時の対応
	3. 対象の生活を支えている他職種との連携から、看護職の役割と機能が理解できる	1）対象の社会資源活用状況 2）対象を支える地域ケアシステム 3）他職種との連携と看護職の役割機能
	4. 自己の看護について振り返り、学習課題を明らかにできる	1）地域で生活する対象を支える看護 2）看護実践者としての自己の振り返りと学習課題の明確化
評価方法	出席時間、実習要項に準ずる	

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	老年看護学実習	担当講師	大海　貴子
実施年次	3 年次	単位数	2 単位	時間数	90 時間

科目設定のねらい

施設を利用している対象を通して、老年期の特徴を理解し、老化に伴って起こる疾病、障害とその家族のもつ課題をアセスメントし、対象の生活過程を中心に安全、安楽、自立･自律を踏まえ、尊厳を守り科学的根拠に基づく看護実践能力を養う。また、社会資源の活用、多職種連携における看護師の役割と責任について理解する。

時間	単元目標	内　容
90	1．老年期にある対象者の身体的・精神的・社会的状態を総合的に理解し説明できる	1－ (1) 老年期を生きる対象者への尊重態度、意思決定支援 (2) 対象者の生活史・人生観・価値観 (3) 老年期にある対象者の身体的・精神的・社会的特徴 (4) 老年期の発達課題 (5) 対象者の健康障害と主要症状 (6) 対象者に行われている治療・処置・検査と看護 (7) 施設と自宅での生活環境の違い
	2．老年期にある対象者の生活史・人生観・価値観を尊重し QOL 向上への看護が実践できる	2－ (1) 看護援助の根拠の明確化 (2) 正確なﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝの測定・ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ、観察技術 (3) 対象者の残存機能・自立を考慮した個別に応じた安全･安楽な援助 (4) 対象者への予防的関わり･変化を予測した二次障害予防援助 (5) 必要な情報の報告･連絡・相談技術 (6) 対象者の生活機能評価から残存機能の活用 (7) 医療安全対策 (8) 家族支援 (9) ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨｹｱ（集団・個別、音楽・園芸療法など）
	3．社会資源の活用と保健医療福祉チームの一員である看護師の役割を説明できる	3－ (1) 社会資源と介護保険制度 (2) 多職種との連携（他職種の役割） (3) 地域連携 (4) 介護老人保健施設での看護師の役割と職責の範囲 (5) 高齢者保健・医療・福祉制度、施策の動向 (6) 介護保険施設、介護福祉施設、施設サービス、居宅サービスにおける看護
	4．看護の専門職性について考える	4- (1) 老年看護の責務 (2) 医療倫理、看護倫理 (3) 看護者の倫理綱領
評価方法	出席状況、実習要項に準ずる	

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	周術期看護実習	担当講師	小椋　貴文 全教員
実施年次	3 年次	単位数	2 単位	時間数	90 時間

科目設定のねらい

周術期は、対象者が手術療法により受けた侵襲から順調に身体回復する過程をサポートする。成人期の健康障害の特徴の一つは内科的・外科的治療が有効な場合が多く、回復後は社会復帰をめざす。したがって最新の医療に関する知識が必要となり、その選択は患者本人に委ねられる。そういった自己選択・自己決定を助け、本来の生活にできるだけ早期に復帰できるよう援助することが必要である。また、入院・治療においては家族・仕事への影響が必須なので、家族・職場の理解を得られるような支援を含めた看護を提供しなければならない。老年期の人の場合は、多くの疾患を持ち手術療法を受けるためリスクの高く、術前からの準備と術後の管理が重要となる。また、合併症を起こすリスクも高く、ベッド上での生活にならないように身体状態に合わせた離床を行う必要がある。

本科目では、成人期・老年期の特徴を踏まえ、手術療法よる受けた侵襲から順調な回復をたどるための援助、社会復帰に向けた支援を学ぶ。

時間	単元目標	内　容
90	1.　成人期・老年期の発達段階の特徴をふまえ、周術期の看護が実践できる	1- 1)　成人期の特徴をふまえた発達段階・生活の理解 2)　対象者の病理的状態と治療・処置・検査 3)　健康障害の受け止め方と回復への認識 4)　術前心身状態アセスメント 5)　術前看護の実践 6)　術後看護の実践 7)　セルフケアの再獲得に向けた援助 8)　対象者と共に行う評価 9)　家族への支援
	2.　保健・医療・福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚した行動ができる	2- 1)　病棟における医療チームとの連携・協力 2)　看護チームの動きをふまえた実践・報告 3)　チームにおける自己の役割の認識
	3.　看護援助に問題意識を持ち振り返り、看護の意義を実感できる	3- 1)　対象者への看護援助に問題意識を持ち振り返る 2)　自己の看護者としての成長と課題の自覚 3)　看護観の発展
評価方法	出席時間・実習評価は実習要項に準じる	

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	健康回復期看護実習	担当講師	小椋貴文 全教員
実施年次	3 年次	単位数	1 単位	時間数	45 時間

科目設定のねらい

成人期は青年期・壮年期・中年期とライフサイクルの中でも最も長い時期で、身体的には成長・成熟・衰退への変化、精神的には各期の発達課題を達成しつつ老年期に向かっている時期である。

多くは家庭や社会の中心としての立場にある成人の健康は、他者や社会に対する関係・できごととの関連が大きい。

高齢者は、予備力・適応力・防御力・回復力が減退しており、健康状態においても生活行動においても常にバランスを崩しやすい特徴がある。健康障害からの回復には時間を要することを前提に、一方で入院による身体機能の低下を予防しながら対象のペースに合わせて回復を支えることが求められる。

成人期・老年期の特徴を踏まえ、それぞれの人が健康障害から回復に至る過程の看護について学ぶ。

時間	単元目標	内　容
90	1. 成人期・老年期の発達段階の特徴をふまえ、健康の回復・苦痛の軽減に向けた看護が実践できる	1- 1) 成人期・老年期の特徴をふまえた発達段階・生活の理解 2) 対象者の病理的状態と治療・処置・検査 3) 健康障害の受け止め方と回復への認識 4) 対象者と共に創る看護計画 5) 生活援助を中心とした看護の実践 6) 対象者と共に行う評価
	2. 保健・医療・福祉チームの連携の実際と看護の役割と責任について理解できる	2 1) 病棟における医療チームとの連携・協力 2) チームにおける自己の役割の認識
	3. 対象者に行われている看護に問題意識をもち、看護について考える	3- 1) 対象者への看護援助を振り返り、看護について考える 2) 自己の看護者としての成長と課題の自覚
評価方法	出席時間・実習評価は実習要項に準じる	

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	終末期看護実習	担当講師	杉垣ひとみ 全教員
実施年次	3 年次	単位数	1 単位	時間数	45 時間

科目設定のねらい

本科目では、がんと診断されて全人的な苦痛と対峙する対象者を通して、対象者の望む生き方ができるための看護について学ぶ。

成人期にある対象者、老年期にある対象者の死の受け止めを捉え、対象者の全人的苦痛を受け止めようと取り組み、人間関係形成過程を大切に関わる。また、苦痛の緩和、日常生活援助を実践し、発達段階の特徴を踏まえた対象者の望む生活に向けた看護を学ぶ。

時間	単元目標	内　容
90	1.　成人期･老年期の発達段階を踏まえて対象が理解できる 2.　終末期の看護が実践できる 3. チームの連携の実際を知り、責任を持った行動ができる ４. 看護援助を振り返り、対象者の立場に立った援助について考える 5. 自己の死生観を明らかにする	1- 1) 対象理解 2) 対象者の不安・苦痛の理解と苦痛緩和 日常生活援助 3) 対象者の家族の不安と支援の理解 4) 対象者・家族の望む生活に向けたチーム医療の連携の実際 5) 対象者との関わりを通して自己の看護観を明らかにする
評価方法	出席時間・実習評価は実習要項に準じる	

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	健康保持増進看護実習	担当講師	小椋貴文　大海貴子 全教員
実施年次	3 年次	単位数	2 単位	時間数	90 時間

科目設定のねらい

成人期は青年期・壮年期・中年期とライフサイクルの中でも最も長い時期で、身体的には成長・成熟・衰退への変化、精神的には各期の発達課題を達成しつつ老年期に向かっている時期である。成人期の健康障害の特徴の一つは偏った生活習慣がもたらす健康問題－いわゆる生活習慣病が顕在化してくることである。生活習慣病の多くは完治することが少なく、健康状態の揺らぎの中でいかにその人らしく人生を送るか、が課題となる。そこで、看護の役割は、その人が生涯にわたって病気と共存していけるようサポートすることであることを、実践を通して学ぶことができることをねらいとする。

老年期は、加齢に伴い身体的・心理的・社会的変化をもたらす。老年期の心理・社会的葛藤は、「統合」対「絶望」とされている。身体機能の低下や役割から撤退、あるいは人生に対する悔恨など、絶望の方向に傾く要素が数多くある。これに対して、人生で培った基本的な強さを土台に過去の失敗や後悔、現状に対する失望をも自分自身に引き受けて自我の統合を獲得することが期待される。老いを受け入れ、人生を全うできる英知を得る。老年期は、加齢に伴い生活習慣病が顕在化し、筋肉、骨、関節などの運動器の障害により日常生活に支障をきたす。また、食欲低下により低栄養になることで筋肉低下を起こし悪循環となる。成人期・老年期の特徴を踏まえ、健康課題の予防、慢性的な病気と共に生活できるよう支援することを学ぶ。※地域支援実習は、健康状態別看護「健康保持増進の看護」の授業を活かす内容とする。

時間	単元目標	内　容
60	1.　成人期・老年期の発達段階の特徴をふまえ、慢性疾患を持つ成人への看護が実践できる	1- 1)　成人期・老年期の特徴をふまえた発達段階・生活の理解 2)　対象者の病理的状態と治療・処置・検査 3)　健康障害の受け止め方と意欲の維持 4)　対象者と共に創る看護計画 5)　生涯にわたり疾病のコントロールをしながら生活を送るための援助 6)　対象者と共に行う評価 7)　家族への支援
	2.　保健・医療・福祉チーム　における看護専門職としての役割と責任を自覚した行動ができる	2- 1)　病棟における医療チームとの連携・協力 2)　看護チームの動きをふまえた実践・報告 3)　チームにおける自己の役割の認識 4)　社会的支援の実際
	3.　看護援助に問題意識を持ち振り返り、看護の意義を実感できる	3- 1)　対象者への看護援助に問題意識を持ち振り返る 2)　自己の看護者としての成長と課題の自覚 3)　看護観の発展
30	1.　地域で生活する成人期・老年期の対象が理解できる	1- 1)　成人期・老年期の特徴を踏まえた対象理解 2)　成人期・老年期の生活の特徴と健康問題

	2.　地域で生活する成人期・老年期にある人の健康保持・増進に向けた看護が実践できる	2-① 1)　ワークライフ・バランスを考えた生活を整える看護 2)　生活習慣病を予防するための看護 2-②　　介護予防支援 1)　高齢者の自主的な地域交流活動への参加 2)　転倒予防支援 3)　認知症予防 4)　誤嚥性肺炎予防　他
	3.　地域のおける看護の役割が理解できる	3-① 1)　成人期の生活の場の特徴と看護の役割 　－家庭・地域・職場 2)　健康診査の意義と推進への工夫 3-② 1)　ヘルスプロモーション 2)　一次予防・二次予防・三次予防 3)　地域の保健医療福祉計画と看護活動
評価方法	出席時間・実習評価は実習要項に準じる	

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	母性看護学実習	担当講師	谷口　留充
実施年次	３年次	単位数	２単位	時間数	90 時間

科目設定のねらい

現在、母性看護の対象は妊産褥婦とその子ども将来子どもを生み育てるべき女性、および過去においてその役目を果たした女性のみならず、生涯を通じて性と生殖に関する健康を守る観点から、女性と生殖や育児のパートナーとしての男子、子どもが生まれるあるいは生み育てる家族、その家族が生活する地域社会をも含むようになった。母性看護学概論、援助論で健全な次世代の育成という母性に焦点を当て周産期の看護を学んだ。

本実習では、正常経過にある妊産褥婦の身体的・心理的・社会的特性を理解し、出産直後から退院までの看護の実際を学ぶ。また、地域支援実習を取り入れ、地域で暮らす母、児、その家族の状況や思いをとらえ、より健康に過ごすためにどのような支援活動が必要かを知り、その中での看護職の役割について学ぶ。さらに、母性看護学実習をとおして自己の母性観・父性観が育成されることをねらいとする。

時間	単元目標	内　容
６０	1. マタニティサイクルにある対象と児の特徴をふまえ、健康の保持・増進に向けた看護が実践できる。	1. 1） マタニティサイクルにある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 2） 新生児の身体的変化を理解する。 3） 妊産褥婦の特徴と経過に応じた観察・アセスメント 4） 新生児の特徴と経過に応じた観察・アセスメント 5） マタニティサイクルにある対象の順調な生理的経過と母親役割獲得に向けた看護を考え実践する。 6） 胎外生活への適応に向けた看護を考え実践する。
３０	2. 地域・病院で実施されている保健医療福祉チームの連携の実際と、看護師の役割が説明できる。	2. 1） 母子とその家族を支える保健・医療・福祉システムを学ぶ 2） 保健・医療・福祉チームにおける連携と看護職の役割を考える 3） 母子と家族を支えるチームの一員としての役割を考え行動する
	3. マタニティサイクルにある対象と児との関わりから母性看護について考える。	3. 1） 自己の援助過程、看護場面の振り返りを通して母性看護について考える。 2） 自己の母性観・父性観をみつめ、成長と課題を明らかにする。
評価方法	出席時間、実習要項に準ずる	

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	小児看護学実習	担当講師	小谷　和大 全教員
実施年次	3 年次	単位数	2 単位	時間数	90 時間

科目設定のねらい

小児期にある対象の特徴を総合的に理解し、健やかな成長・発達を助けるとともに、健康の段階に応じた看護が実践できる能力を養う。

病院実習では、健康障害を有する子どもと家族への看護を学ぶ。

保育所実習、特別支援学校実習では、地域で生活する子どもを理解し、日常生活の世話及び簡単な健康教育、学習支援のあり方を学ぶ。

時間	単元目標	内　容（行動目標）
90	1)小児期にある対象と家族を総合的に捉え理解できる。	(1) 対象の成長発達段階を捉え、身体的・精神的・社会的特徴を理解する (2) 日常生活や遊び（学習）を通して対象の年齢・月齢に応じた成長発達の特性を把握する。 (3) 対象は子どもと家族であり、1 つの単位として捉える。
	2)小児期にある対象の健やかな成長・発達を支えるとともに、健康段階に応じた援助を行い、成果を検討する。	(1) 対象の健康状態を把握し、健康段階を判断する。 (2) 健康障害及び治療・処置・検査が対象の生活にどのように影響しているのか理解する。 (3) 対象に合わせた基本的生活習慣確立及び自立へ向けた援助を行う。 (4) 対象に合わせた治療・検査・処置の援助を行う。 (5) 対象に行われる援助の方法・目的を、対象に分かりやすく説明し、対象が納得して援助が受けられるように関わる。 (6) 対象の健康段階、成長発達から危険因子を考え、事故防止に必要な行動がとれる。
	3)対象と関係形成を築き、その関係形成過程から自己の成長と課題に気づくことができる。	(1) 子どもの権利や人権尊重を念頭に置き、対象を尊重し、誠実な態度で関わる。 (2) 対象との関係形成過程について振り返ることができ、信頼関係を構築する。
	4)子どもの健全な成長発達を支える、保健・医療・福祉、教育の中での看護職の役割と責任について理解できる。	(1) 対象を支える、保健・医療・福祉、教育の役割と機能を理解する。 (2) チームの中での看護職の役割を考える。 (3) チームの一員として責任ある行動をとる。
	5)子どもと家族との関わりを通して自己を見つめ、小児看護について考える。	(1) 子どもの健全な成長発達を支える看護について考える。 (2) 自己の学びと課題を明確にする
評価方法	出席状況 実習評価は実習要項に準ずる。	

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	精神看護学実習	担当講師	田中佳代子
実施年次	3 年次	単位数	2 単位	時間数	90 時間

科目設定のねらい

精神看護学実習では精神に障害がある人の理解を深め、精神状態が日常生活に及ぼす影響と回復過程について学ぶ。また対象者との関係を形成する中で、相互作用を自己洞察しながら、精神看護に必要な援助とその方法について学ぶ。　また精神に障害を持ちながら地域で生活している人との関わりの中で、あらゆる人々がその人なりの心の健康を保ちながら、その人らしく生活していけるための『リカバリー』の考え方に基づいて、社会支援の実際と看護について学ぶ。

時間	単元目標	内　容
90	1. 精神に障がいを持つ人の心と行動を、生物学的・心理学的・社会学的側面から全人的に理解できる	1）病気や治療によって変化した生活と現在の状態を捉える (1) 生活者としての対象理解 (2) 生活史や家族関係を踏まえた対象理解 2）対象者の生活を困難にさせている要因を分析する (1) 発達課題や危機を乗り越えられないことによる心理社会的側面への影響をアセスメントする (2) 精神症状だけでなく、ストレングス（強み）を捉えて生活行動との関連をアセスメントし、自立に向かうための看護を考える
	2. 対象者の「回復」を支えるために必要となる看護を考え実践できる	1）対象者の精神症状や状態に応じて強みを活かした看護援助の実践と評価 2）治療的コミュニケーションの技法の実践 (1) 治療環境の理解 ・精神保健福祉法と関連づけた対象者にとっての治療的環境の理解 (2) 「傾聴」や「共感」のコミュニケーション技術の活用 (3) 人としての尊厳を護り、人権に配慮した看護を考える 3）地域生活を支えるための支援のあり方 (1) 入院時から地域生活を見据えた看護の実際 (2) 社会資源の活用 (3) 支援の実際
	3. 病院及び地域で行われている保健医療福祉チームの連携について理解し、チームの中で看護が果たす役割について考えることができる	1）病院や地域におけるチーム連携の必要性を理解し、チームの中での看護の役割を考える 2）精神に障がいを持つ人の地域生活の実際と、病院・地域の連携の実際を学ぶ
	4. 精神障がい者やその家族にとてのより良い看護を考える	1）「その人が望む生活」が送れるための看護を考える 2）「回復」を支える看護について実習での学びを統合させる
評価方法	出席時間、実習要項に準ずる	

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	総合実習	担当講師	和田　美穂 全教員
実施年次	3 年次	単位数	2 単位	時間数	90 時間

科目設定のねらい

看護チームの活動に参加し、看護実践能力を高めるとともに、これまで学んだことを統合して、看護の本質を考え、看護活動に活かすことができる能力を養うことをねらう。

そこで、看護チームにおける看護マネジメントを理解し、1 人の看護師が組織の理念に基づき、どのように複数の対象者のニーズに対して、最善の看護サービスを提供しているか、その判断過程と看護実践を理解する。これまでの実習で対象者を大切に思い、対象者中心の看護を考え実践してきた。改めて、病院組織から対象者を大切にする看護について考え、看護の本質を追求し「看護とは何か」を問い、じっくり看護を考える。

また、夜間帯・複数受持ちなどの実習を体験することで、実務での看護の実際を理解し、働く自分をイメージすることで、看護実践者に必要な能力が具体的になり自己の課題に向かって自己研鑽する動機付けとしたい。そして、看護専門職としての役割・責務・態度について学習を深めることで将来のキャリアを見据えるための一助とする。

時間	単元目標	内容
90	1. 看護管理の実際が理解できる	1) 看護組織の機能と役割 2) 安全な環境確保 3) 看護チームにおけるリーダーシップ、メンバーシップ 4) 夜間帯における看護サービス、管理の実際
	2. 複数の対象者のマネジメントをしながら対象者の状況に応じた看護が実践できる	1) 対象者の状況判断と優先順位の決定、時間管理 2) 対象の変化、状況の変化、流動的な看護の中での状況判断 3) 安全な看護技術の実践
	3. 保健・医療・福祉チームにおける看護師としての役割と責任を自覚し行動することで他職種との連携について理解できる	1) チーム医療、他職種との協働におけるマネジメント 2) 対象に関する看護援助についてチームメンバーとともに調整、援助内容検討、援助評価 3) チームの一員としての責任ある行動
	4. 看護実践における自己の課題を明確にし、今後の学習課題がわかる	1) 自己の看護実践能力の振り返り 2) 自己の看護者としての課題 3) 今後取り組む学習課題
評価方法	出席時間・実習評価は実習要項に準ずる	

授　業　概　要

分　野	専門分野	科目名	看護の統合	担当講師	田中佳代子 谷口留充
実施年次	3 年次	単位数	2 単位	時間数	45 時間

科目設定のねらい

近年の社会背景の変化に伴い看護活動の場が病院だけでなく地域へと多様な場に広がっており、看護師が行う健康状態に関する判断や、必要な看護介入の決定のための判断等、看護するうえでの適切な臨床判断が求められている。本科目では、1 年次から積み上げてきた「臨床看護総論Ⅰ・Ⅱ」「看護展開方法の基礎・活用」といった看護を考えるための基本的な思考を統合させて、“看護師のように考える”思考により近づけるための学習内容を設定する。

また、様々な場で暮らす、様々なライフステージ・健康レベルにある対象の健康や生活を守る援助の提供に向けて、各種専門職の特性を活かしながら対象の目標達成に向けて多職種が連携することが求められている。常に対象を中心に据えた多職種連携のあり方について学び、協働する中で「専門職として私は何ができるのか」と考える力を育成することを目的とした学習内容を含むものとする。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
前期 20	1. 対象を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断のための思考を身につける 2. 対象の健康状態やその変化に応じて看護援助を実施する 3. 多職種の役割と責務について、理解する 4. 多職種間のコミュニケーション能力を身につける 5. 多職種が連携・協働する必要性を理解する	1)老年期にある対象の回復段階における看護を考え、実践する 2)「嚥下障害」「経口摂取」について臨床判断し、安全･安楽な食事摂取方法について検討する	(1) 脳梗塞事例の看護を考える ①対象者の状態を把握するための意図的な情報収集 ・観察 ・フィジカルアセスメント ・コミュニケーション ②対象者の状態を解釈する ③必要な看護援助を考える (2) 計画に基づいて看護援助を実施する ①対象者の状況・状態に応じた看護援助 ②対象者の変化に気づき、対応する ③看護行為の評価 ・行為の中での省察 ・行為の後の省察] リフレクション (3) 各専門職の役割と活動内容 ①看護職と他職種の共通性 ②各専門職の活動内容と活動の限界	事例演習 個人ﾜｰｸ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ 演習 OSCE
後期 20		3) 老年期にある対象のリハビリ期～在宅生活に向かう段階における看護を考え、実践する 4) 各専門職と連携し、対象が望む生活に向かうための看護援助について検討する	主題 1)－ (1)(2)　同様 (3) 多職種との模擬カンファレンス ①多職種間のコミュニケーション ②対象者志向の倫理 ③多職種で対象者の目標を共有する (4) 退院に向けて必要な看護援助を計画する	事例演習 個人ﾜｰｸ ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ 演習 OSCE

4 1	試験	5) 看護職と他職種の「異質性（役割の違い)」	(1) 多職種が協働・連携することの意義について、それぞれの考えを共有する (2) 看護の専門性を考える	グループディスカッション
テキスト				
参考文献				
評価方法	筆記試験、取り組み点、OSCE ルーブリックによる評価			